



OMI KYODAI SHA

信愛館だより

みよ、兄弟達が一つになって共に住むことは、(特稿133の1)
なんといいあわせ、なんといい楽しさであろう

Vol. 147

2025年1月号

発行/ケアハウス信愛館
近江八幡市北之庄町492-2
TEL/0748-32-2220
FAX/0748-33-7555
<http://www.shinaikan.com>
Mail/vories@zb.ztv.ne.jp

「昨年以上の明るさを」

社会福祉法人近江兄弟社地塩会

理事長 亀山 謙四郎

新年明けましておめでとうございます。

令和の時代に入り、もう7年目のスタートを迎えました。この速さに今更乍ら驚くばかりです。老いも若きも与えられている時間は同じなのですが、齢を重ねるほど時の経つのが速く感じられる様に思えます。昨年も様々な出来事や変化に一喜一憂、あっという間の一年であったように思います。

この年も一日一日の時間を無駄なく大切に、また有意義な時間で満たされるよう努力をしたいものです。昨日の一日と今日は違います、また明日も同じではありません。常に一日を省みて良い歩みを心掛けたいものです。

現在のこの館のスタッフは、心を持った人達の集まりであることを信じています。此処に居を求めて来られた兄弟姉妹全ての人達の毎日を暖かく見守ってくれています。入居者の方々の良い歩みを支えてくれるメンバーです。遠慮なく話かけ、相談があればぶつけて頂きたい。スタッフで解決できることは必ず協力してくれるでしょう。その様に接触を多くし、お世話をする側との人と人としての近付きが、また生活する上での楽しさを増すことでしょう。

そして、人との良い関係を築き保つ為には、よく言われますが、「言葉」にも気を付けたいと思います。間違っって悪い印象を与える言葉もありますが、頭から悪意を以って言葉を発する人も居ます。所謂「いじめ心」をもった言葉に複数の方が傷つき悩んでいるとすれば、施設として、それに対処しなければなりません。悪意を以った行動・言動は必ず自らに戻ってきます。

此の年は昨年を確りと省みて、私達職員は更なる心構えで「一視同仁」の心を以って臨み、この館内の住人の方々はお互いを尊重し合い「心」を持ったお付き合いを常に心がけて頂きたい。それを切に望みます。

此の年は、昨年以上の明るさ、住み易さ、毎日が本当に楽しく笑顔に満たされるような館内環境を目指して、館内の全ての人達の協力で築いてゆきたいものです。本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

感謝



キリスト教 あいうえお (2巡目) — 「杖」

近江金田教会牧師 横田 明 典

「転ばぬ先の杖」は、失敗しないよう前もって準備をすることのことわざですが、歩くのに不安のある人にとっては、実際の杖は心強いものだと思います。

聖書に出てくる杖として有名なのは、旧約聖書のモーセの杖でしょう。モーセは神様からイスラエルの民を救うようにと言われますが、誰も言うことを聞いてくれないのでは、と不安になりました。その時に神様が「杖を投げよ」と言われ、その通りにすると杖が蛇に変わりました。つまりそれが神様が共にいることの「しるし」だったのです。

このモーセの杖は、エジプトからの脱出の際に、ナイル川を血に変えるとか、強い風を吹かせるとか、海を二つに分ける時にも使われました。

新約聖書では、イエス・キリストが弟子たちを派遣する際に「旅には何も持って行つてはならない。杖も袋もパンも金も持ってはならない」と言っています。これは、神様の仕事として旅をするのだから、何も頼りにせず、ただ神様のみを頼りにしなさい、ということだと思います。古今東西、杖は心身ともに人間を支え、助けてくれる大切な存在として考えられていたようです。

ケアハウス信愛館の日常

◆ 敬老の日 ◆



職員一同から
心ばかりのプレゼント。
皆様の笑顔が素敵です。



米寿を迎えられた方が
4名いらっしゃいました。
誠にありがとうございます。

◆ 文化祭 (11月3日~9日) ◆



今年も入居者の皆様方の力作が並びました。毎年ながら感心させられます。



◆ コスモス・ブルーメの丘ツアー ◆



一面がピンク色に染まったブルーメの丘「アニマルガーデン」はとても美しく、秋の訪れを感じることができました。その手前には小さな向日葵も咲いており、鮮やかな黄色がコスモスと見事に調和していました。



◆信愛館周りの紅葉◆

～裏山より～

4階西棟廊下より



毎年、信愛館の中や外にて美しい紅葉を鑑賞することができます。



2階南棟廊下より



◆クリスマスのイベント◆



12月15日クリスマス祝会



今年もたくさんのクリスマス飾りと豪華なメニュー(手作り)でクリスマスを迎えることができました。

編集後記



新年あけましておめでとうございます。旧年中は多くのご支援とご愛顧を賜り、心より感謝申し上げます。本年も皆様にとって素晴らしい一年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

今年も心待ちにさせていただけるような信愛館だよりを、編集員一同心を込めてお届けいたします。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(感謝)